

【山崎主宰の俳句】

人のくらし

山崎 聰

蛇穴に入りたるあとの人のくらし
綿虫のよく飛ぶ日なり喜八の忌
海拔二百米の空っ風
木枯一号わあんわあんとけもの
冬までのしばらくを濃き遠山河
陽の底で冬菜を育て小さくいる
今も極道白山茶花咲いて散り
生死あり木枯一号のゆくえ
晩節は柞の山の奥の奥
月山はいまだ遠くて吊し柿